プリンセス

小公女セーラ

第30話

『インドから来た紳士』

AR台本

企画
制作
日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第三十話　『インドから来た紳士』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン……………中島妙子
アメリア……………梨羽由記子
ベッキー……………鈴木三枝
ピーター……………坂本千夏
モーリー……………向殿あさみ
ジェームス……………郷里大輔

カーマイケル……………
ベッキーの母……………
マーサ……………
テディ……………
老管理人……………
地主……………
郵便屋……………
婦人……………
人夫……………

カメラ	画面		音声
1	早朝―― 空が明るさが増していく（モヤ） ピイチクピイチク―― 激しくなって―― 数羽が飛んで学院の屋根や煙突の方へ――		S・E（小鳥の声）
2	東の空 明るい 小鳥、煙突の上や傍に止まり鳴く（モヤ）		←～～～～～～～～～
3	屋根の上―― セーラの部屋の窓の近くに集まる、さえずり騒ぐ小鳥たち		
4	寝ているセーラ 目をさましねむそうに起き上がる 目をこすり、大きくあくびをするように延びをする 手を下ろし部屋を見廻す		S・E（鳥の啼き声）
5	ダンロとメルの穴とつづら		

6	机と写真等　洋服がたたんでおかれている		
7	大きく溜息をする 毛布はねのけベッドに腰をかけ傍のエミリーを取り上げるじっと見つめていたがひしと抱きしめる		セーラ「お早よう……エミリー……」 セーラ「……エミリー、この屋根裏には……私たちだけなのよ……」
8	ベッドに腰をおろしエミリーを抱いているセーラ		
9	屋根の上で遊ぶ雀　窓からエミリーを抱いているセーラが見える　セーラ窓を見上げるややあってから立ち上がる		
10	屋根に遊ぶ雀たち　窓があきエミリーを抱いたセーラが姿を見せる　雀たち飛んで逃げる		
11	抱いているエミリーを見るセーラ		セーラ「エミリーに雀さんを見せてあげようとしたのに…ねェ」

	淋しそうにエミリーを抱いた手にもっている紙包みから―― パンクズを撒くセーラ―― 終って顔を見合わせゆっくりと引っこむ		
	A・C		
12	引っこむセーラ　椅子の上に中腰になる ――間―― 雀が二、三羽屋根に下りるのが見える 抱いたエミリーを見てクスンと笑って エミリーを差し上げてから自分ものぞくセーラ		セーラ「……来たわよ……見る……ゆっくり顔を出すのよ……」 セーラ「お早よう……雀さんたち……」
13	屋根の上でパンクズをついばむ雀たち		
14	枠に手をかけ、その上にあごをのせて眺めるセーラ、セーラとエミリーを見てにっこりする		セーラ「フフフ……!!」

15	パンクズをついばむ雀たち		
16	じっと見つめるセーラ 目線を雀から遠くにうつす		
17	PAN← 朝モヤの中の家々――		セーラ(off)「ほら…エミリー、誰れも未だおきてないみたいね……いつもなら……ベッキーと朝のアイサツをしているのに… 〜 せめて、……空家のお隣に誰か引っこして来てくれると……」
18	ミンチン学院		
19	セーラ、隣の家を見ながら		セーラ「……そうよ……いつかきっと、お隣に大家族の一家が引っ越してくるわ…そして屋根裏部屋に上って来た子供たちが一斉にあの窓をあけて――」
20	隣の家の窓		
21	セーラ T・U(カット一杯)		
22	急に窓が開いて、次々に顔を出す子供たち、手を振ったり笑っている		

23	にっこりするセーラ		
24	手を振り呼びかける子供たち ↑PAN・UP（カット一杯） 声エコーして重なり合っていく		「おはよう−！　お隣さん」 「ねえ君、ひとりぼっち！」 「お友達になりましょうよ！」
25	にこにことするセーラ		セーラ「ありがとうみなさん……こちらこそ よろしく……！」 モーリー(off)「セーラ！」
26	子供の姿が一人、二人消え、瞬 時に全員消え失せる 窓だけのこる——		←〜〜（こぼし）
27	雀が横切る　はっとなって我に かえるセーラ		モーリー(off)「セーラ……！　聞こえないのかい」
28	驚いて振り返り、下を見てギョ ッとなるセーラ　飛び立つ雀た ち		
29	眼をつり上げて見上げているモ ーリー		モーリー「フン！……なにをしているかと思 や、朝っぱらから景色なんか眺めて！ 〜

30			〜……さあ……さっさと朝の支度にかかるんだよ……!!」 セーラ「はい……モーリーさん……」
31	レンジにかけられた大鍋に水が一杯入っている　間歇的に煙がすき間から吹き出す		
32	フイゴで懸命に火をおこしているセーラ 逆流する煙に顔をそらしたり、目をこすったりしている 火がつく　二回くらいフイゴを使用して——下におき、スコップをとり、火をいくらかとり出す　手前に歩く		
33'	小型のレンジの蓋があけられる 中に石炭が見える 火のついた石炭がスコップで中に入れられる		
34	しゃがみこみ、中をガサゴソし		

	ているセーラ 振り返るセーラ	S・E　（扉のひらく音）
35	ジェームス入って来て、大きなあくびをする　にこにこと見ているセーラ 前に出て帽子をかぶりながら 立ち上がるセーラ	ジェームス「フワワワワ………〰〰 いやあ、よく寝た、生徒たちがいないと楽で有難いねェ……」
A・C		
36	軽く会釈する 叩頭するジェームス（ジェームスの後結ばれていない）	セーラ「お早よう御座います、ジェームスさん」 ジェームス「おう…昨夜言いつけた通りにやっといただろうな……」 セーラ「はいジェームスさん」
37	傍のテーブルを見廻して 扉開いてモーリー入って来る ジェームズの後にくるモーリーヒモを結びながら	ジェームス「ようよ……」 モーリー「セーラ……院長先生が朝食はお部屋に運ぶように仰言ってたからね……」 セーラ(off)「はいモーリーさん」 モーリー「アメリア先生も、そうして貰いたいみたいだから…… (off)……伺っといておくれ……」
38		

	セーラ、ハキハキと		セーラ　「はい……判りました……」
39	三Ｆの廊下の窓から見える、強い陽ざしに照らされている家と白い雲が見える		
40	寝ているシーザー 目をさまし、振り返り下を見て起き上がり大きくあくびをする 下を見ながら上に昇るシーザー		S・E　（階段を昇る音）
41	昇ってくるシーザー 朝食の盆を掲げもったセーラが昇って来てミンチンの部屋の前に立ちノックする		セーラ　「お早ようございます……朝食をおもちしましたが…」 ミンチン(off)「お入り……」
42	お盆をもっているのでひじなどを利用して扉をあけて入ってくるセーラ　軽く会釈をする 顔を上げてキョトンとなる		

43	ナイトキャップ、ねまき姿のミンチン　愛想よくアイサツに答える		ミンチン「ここへお運び……」
44	セーラの足　あるいてoutする シーザー、キョトンとしている		セーラ(off)「はい……」
45	ミンチン、チラリとシーザーを見る　セーラ戻って来て扉をしめる　シーザー振り返り、手で顔を激しく拭く		
46	皿やカップののったお盆をもって奥のミンチンの方へ行き、胸前に盆を置くセーラ		
47	ミンチン、ナプキンを取り上げる――　おき上がるセーラ、二人目線がちらり合う キッとなるミンチン（気がひけたのです） ミンチン、誤魔かすように、すましてナプキンを胸にかける		ミンチン「なんです、その眼は……」 セーラ「え?!」 ミンチン「フン……ま、よろしい……こういうことをしてもよいのは、この私だけで

			すからね、アメリアもなりません……」 セーラ「え……」
48	きどった顔をして ごきげんにうなずくミンチン		ミンチン「当然です……。そうそう…教室の窓ガラスが汚れた儘です、磨いておくように……」 セーラ「はい……」
49	呑み終りカップ下におき優雅に（大変きどって）ナプキンで口の周りを拭くミンチン 傍にじっと立つセーラ		ミンチン「……結構ですね……」
50	うずくまっているシーザー 首を上げ音の方を見るシーザー セーラ、歩いていく 見送って立ち上がり、セーラの行った方を見るシーザー		S・E　（扉の開く音・しまる音）
51	扉をノックするセーラ ごきげんなトーンの高いアメリアの声		アメリア(off)「はあい……！　どおぞオ！」

52	（内から）扉、手前に開いてセーラが現われる	アメリア(off)「んまあ……！」
53	ナイトキャップを冠ったアメリア、起き上がりながらごきげんなポーズで嬌声を上げる ハッとなって見つめるアメリア	アメリア「ありがとー、私、一度でいいから…ベッドで朝食を……！」 S・E　（扉のしまる音）
54	ドアを閉め振り返り軽く会釈するセーラ	
55	茫然とセーラを見つめるアメリア うつむくセーラ	アメリア「……食……事……!!」 セーラ「申し訳ありません……院長先生がお食事は、生徒食堂でなさるようにと…」
56	憮然たる顔をするアメリア	アメリア「まあ……お姉様が………」
57	テーブル上のベーコンエッグ ナイフとフォークinしてベーコンを切る　せわしなく切る動き	
58	イライラ、ムシャクシャという	

	感じで食事をするアメリア			
59	足許で見上げているシーザー 食べたそうに啼く		シーザー「ニャーゴ」	
60	いらいらとパンを食いちぎり 又、大きくパンを食いちぎり食べる		アメリア「シイッ!!」	
61	教室の窓ガラスを拭いているセーラ　カット尻シャガム			A・C
62	雑巾をよごれた水の中につけてすすぐセーラ――　汗がひたいに浮かんでいる しぼる、汚れた水がじゃぼじゃぼとおちる 立ち上がる			A・C
63	立ち上がり、窓ガラスを拭くセーラ			
64	拭くセーラ　汗が一条二条と流			

	れる	
65	拭くセーラ　手を止め自分の左の方を見る しゃがんで、雑巾をおいてて 走って行くセーラ 郵便屋が窓外に歩くのが見える	セーラ　「あ……！」
66	郵便屋、手前に来て玄関に向う セーラ扉をあけて出て来て石段を昇る 止まる郵便屋	セーラ　「郵便屋さん!!　お早よう」 郵便屋　「やあ、お早よう」
67	昇ってくるセーラ 封筒を受け取るセーラ 戻っていく郵便屋——　セーラ封筒を見る	郵便屋　「……はい郵便だよ」 セーラ　「御苦労さま……」
	——A・C——	
68	驚喜するセーラ	セーラ　「まあ……ベッキーから……私に……！」
69	机の上に置かれた開封されている手紙	

70	取り出した書信を手に封筒を見て微笑するセーラ 手紙を見るセーラ　イタズラッポク、クスンと笑う……	
71	下手クソな文字で書かれた手紙ところどころ黒くつぶしてある （活字体の棒書き）	ベッキーの声「ハイケイ。セーラオジョウサマ……オゲンキデスカ……ワタシモ、トテモオゲンキデス」
72	クスンと笑うセーラ――目で文字を追い始める	ベッキーの声「イマ、オジョウサマニナラッタジヲ〜 オモイダシナガラ、イッセイケンメイ……コノテガミヲカイテイマス……」
73	考え考え、一字一字づつ手紙を書くベッキー	
74	微笑して手紙を読むセーラ	ベッキーの声「キノウハ……カアサントイッショニ……」
75	立派な地主の家　PAN← いく棟の納屋や作業小屋が見え草原にブタが餌を食べている マーサが逃げないように棒をもって豚を見張っている―― 一匹	ベッキーの声「ジヌシサマノトコロニ、ハタラキニ、イキマシタ……」

	が走る　追うマーサ		マーサ「だめ……！」
76	逃げる豚を追うマーサ FOLLOW		マーサ「こらー！　まってー！」
77	餌を食べる豚たちと奥で豚を追うマーサ　手前に戻ってくる豚とマーサ		
78	豚、群れの中へもどり逃げた豚判らなくなる マーサ、棒を振りかざしてもどってくる		
79	きょろきょろとしながらプリプリおこっている		マーサ「まったく……どこへかくれたの――！」
80	牛の乳をしぼっている母 傍で一人あそぶ赤ん坊 馬にのった地主来る　あいさつする母		地主「いつも御苦労だな……」 母「いえ…働かせてもらい大助かりです」 地主「うん……ベッキー良くやっているようだな……」

	地主、去る	母　「ハイ……」
81	川の中から馬の手綱をひいて岸へ上がっていくベッキー →ＰＡＮ　川の中で馬を洗うテディ	ベッキーの声「ジヌシサマノトコロデ、ハタラクノハ、カリテイルオカネヲ、スコシデモオカエシスルタメデス……」 ←（こぼし）
82	手紙を見つめるセーラの顔曇る 振り向くセーラ	セーラ　「……家へ帰ってもゆっくり休めないなんて……」 Ｓ・Ｅ　（扉の激しく開く音）
83	扉口に立つモーリー	モーリー「セーラー！　……なにをしてるんだよ。……買出しに行く時間だよ!!」
84	工合悪そうに手紙を身体でかくして	セーラ　「はい……！　モーリーさん」
85	夏の昼下がり　路上に黒い蔭 馬車がいく — Ｏ・Ｌ —	

	O・L		
86	テムズ川の夕日　キラキラとする水面にもやっている船		
87	買物して来たものを検べているジェームス 手前に小走りくるセーラ		ジェームス「よし……、さあ、モタモタしてねエで夕食の支度だ、支度だ！」 セーラ「はい……ジェームスさん」
88	戸棚に来て皿や鉢をとり出すセーラ		
89	夜になっている　馬穴をもって入ってくるセーラ		S・E（ポンプと水の流れる音）
90	水槽のふちに馬穴をおき大きく息を吐くセーラ 馬穴の水を水槽に入れる		
91	消えている廊下のランプ		ミンチン(off)「セーラ……灯りのガス代は只じゃないんですからね、使わない時はさっさと消すんですよ！」
92	壁の灯火の下でセーラに注意しているミンチン　手をのばしラ		

シーン	内容		台詞
	ンプを消すミンチン （BG O・L）		セーラ 「はい……院長先生！」
93	夜の学院 セーラの窓が明るく なる		
94	つかれはてて机に手をつきうな だれている		
95	つかれているセーラ 椅子に座 る―― がっくりとしているが― 手紙を出し読み始める 微笑する		
	O・L		
96	早朝―― モヤの中に見えるベッ キーの家とはなれて教会や村落 が見える ベッキー一家が出てくる		
97	野菜の入ったカゴを負った母と ベッキー、手に荷物をもったテ ディ、見送るオバアチャン		

98	手をつなぎ喜々と行くベッキーと弟妹 後から篭を負った母がにこにこと行く		ベッキーの声「ケサハ、カアサンヤオトウトヤイモウトタチトアサハヤクオキテ……」
99	手を振るオバアサンと赤ん坊 奥で振り返り手を振る一家―― 見えなくなる		
100	石橋を行く一家		
101	喜々とくる一家		ベッキーの声「ウラノハタケデトレタヤサイヲ」
102	田舎の古い街の通り　PAN←		
103	古い家（チューダー朝のもの） T・B　青空露天市　ごったがえす人々		
104	テディ、ザルにタマゴをもって来て		ベッキー「さあ、さあ……新鮮な野菜はいかがですかあー」 テディ「さあ……うらの小川で集めて来たばかりのアヒルの玉子だよ――オ。」 ～

	座って野菜を見ていた婦人立ち上がり玉子を見る		
105	にっこりとして		早く買わないとなくなるよ、——数少ないからね」
106	もった玉子を返してにっこりするテディ		婦人「じゃ、五ヶ頂だい！」 テディ「うん……、五ヶね、ありがとう——！」
107	ラベンダーの花束を手にしたマーサ にこにこと見つめるベッキー		マーサ「エエ、つみたてのラベンダーの花はいかがですか……洋服入れの虫よけにもなるラベンダーの花ですよ」
108	品物を差し出す母 母と娘顔を見合わせてにっこりする		母「有りがとう御座いました……おまけしときましたよ——」 (off)「ありがとう」
109	元気に商売をしている母と娘 T・B		

110	連なる山　PAN→　田舎の坂道、手をつなぎ喜々と来る一家 夕日が美しく—— —O・L—		
111	夜のベッキーの家　窓からもれる灯、遠く村落の灯が見える		
112	考え考え手紙を書いているベッキー		ベッキーの声「アタシガハタラキニデテイルアイダニ、オトウトヤ、イモウトハ、ウチノテツダイモ、ダイプデキルヨウニナリ、オカアサンモヨロコンデイマシタ」
113	手紙を書くベッキーと繕いものをしている母 立ち上がる母を見て笑うベッキー		
114	くらい寝室　カーテンをあけのぞく		
115	ぼろフトンをはねのけねている弟妹　母、のぼって来て微笑 手をのばしフトンをかける		
116	寝ているオバアチャンと赤ん坊		

	母、来てフトンをかける		
117	赤ん坊にキッスをする母―― にっこりとして見ている		
118	手紙を書いているベッキー 母、出てくる 傍まで来て二人顔を見合わせにっこりとする		母　「オイモ食べるかい……」 ベッキー「ウン……食べたい！」
119	母、ダンロの前にいきナベからイモを皿にとる 手紙を書きつづけるベッキー		
120	ベッキーの横に来る母 皿に盛ったイモの皮をむきベッキーに渡す にっこり笑って一口食べるベッキー　二人顔を見合わせて笑い合う O・L		
121	夜のベッキーの家　立ちのぼる煙　T・B O・L		

	O・L	
122	屋根裏部屋のセーラ　T・U	
123	手紙を読むセーラ 淋しげな表情のセーラ ちびたローソクが燃えつきる 泣き出しそうな顔になる 手紙を胸にきゅっと抱きしめる	ベッキーの声「デキルコトナラワタシウチニトマッテモラエルト、ヨカッタトオモイマシタガ……ムリナコトダトオモイマシタ……デワオゲンキデ……ベッキーヨリ……ナツカシイオジョウサマへ」 セーラ「有りがとうベッキー……」
124	夏の陽が明暗分けているミンチン学院の前の通り	
125	冷たい蔭に体をのばして寝ているシーザー 奥から一台、荷馬車が手前に向って来るのが見える	S・E　（馬車の音）
126	寝ているシーザー首を上げ見る 前を馬車が通る	

127	128	129	130	131	132
見送るシーザー	隣の家の前で止まる馬車 荷台にのっていた人夫たち飛び おりる　梯子や道具が見える	ものうげに見ていたシーザー 手前に来て止まり、見ていたが	馬車から荷物（道具）を下ろす 人夫たち　御者台より老管理人 が下りる	門扉に付けられている「TO LET」の看板の前に来る老管 理人 管理人、門を見ながら歩いてく out　人夫入って来て、看板をは ずしにかかる	シーザー、尾を立て警戒のうな りを上げる
	人夫「よいしょ！」 人夫「ほらさ！」（etc） ←〜〜			老管理人「この看板を第一にはずすんだ」 人夫(off)「はい！」	シーザー「う……う………!!」

	133	134	135	136	137
前に出て行く	梯子などをおろす人夫たちと看板をはずす人夫 管理人、門扉をあけて入っていく　前に行くシーザー――　止まる	老管理人、門をあけて中へ入っていく	看板をはずし終り傍の門柱に立てかける人夫　馬車の方へもどる　門柱に立てかけられた「TO LET」の看板	コップの水をのんでいるジェームス　汗が浮かんでいる顔 のみ終り手で口の回り拭く 奥でモップで床をこすっている セーラがいる	床をこすられるモップ
				ジェームス「フ――！」	

138	懸命に床をこすっているセーラ		
139	床をみがいているセーラ ひたい汗がにじんでいる ジェームス汗を拭き 前へ出ていくジェームス		ジェームス「フウッ……馬鹿に暑くなりやがったなあ……」 モーリー「ほんとだよ……。 〜 この地下室じゃロクに風も通らないからねエ……」
140	金だらい　水をはり足を入れているモーリー じゃぼじゃぼする足		
141	ゆれる水——		
142	襟元に風を入れながら下を見るジェームス 見上げるモーリー		ジェームス「すこしは涼しいかい……?」 モーリー「ああ大分…… 〜 (off)　ちがうね……水を呑むよりはいいよ…」 ジェームス「ああ……そうするか……」
143	赤銅のポットに汗が一杯 奥で床をみがくセーラ		
144	汗を浮かべて仕事に励むセーラ		

145	ジェームス、足を水の中につける		
146	きもちよさそうにするジェームスを見て微笑するモーリー モップを使うセーラ入ってくる ジェームス、セーラに気づき 手を止めずに見るセーラ モップを馬穴に入れすすぐセーラ		ジェームス「ああ……こりゃいいや……」 ジェームス「おっと……そうそう……セーラ…！」 セーラ「はい……！」 ジェームス「掃除が終ったら、院長先生の夕食の材料を仕入れてくるんだぞ」 セーラ「はい……ジェームスさん」
147	モップをすすぐ　よごれた水がチャポンチャポンとはね返る		
148	涼しそうな二人 T・B　引きあげられるモップ 手がモップをしぼると汚い水がしたたりおちる		モーリー「それがすんだら……洗濯物のアイロン掛けに……トイレの掃除、裏庭の草むしり、やる事はまだまだ山程あるんだからね」
149	汗の浮かんだ顔を上げて返事を		セーラ「はい……！　モーリーさん！」

	するセーラ		
150	涼しそうにうっとりしているジェームス		モーリー「……あたしたちを恨むんじゃないよ……ベッキーの分まで働くのも……」
151	又…仕事にかかるセーラ　セッセと床を拭く		モーリー(off)「院長先生のお言いつけだからね…」 ジェームス(off)「そういうこった……ハハハ……！」
152	もくもくと働くセーラ、汗を浮かべて―― 奥で涼しそうな二人		
153	夏の陽ざかりの学院と隣の家ー 前に辻馬がとまっている 隣の家は窓は開けられ、外の鉄柵を塗り直している 玄関から出入りしている職人 梯子がかけられ壁の補修が行なわれている		
154	使用人出入口の扉開いてでてくるセーラ、まぶしそう　見上げて、ひたいの汗を拭く		

155	強い日ざし—— 白く輝く雲		
156	正面へでてくるセーラ 止まって隣家の方を見る		
157	隣の金柵を塗り直す職人 バルコニーの上にいる—— 正面入口に止まっている辻馬車 一台		
158	ペンキを塗る職人 目を輝かして前に出るセーラ 目線を下から上方に移していく		
159	ベランダに梯子をかけ扉の上部 を直している男 下で柵にペンキを塗る男		
160	開けられた窓より、物を整理し ている人夫見える—— セーラ入って来る		
161	にっこりとするセーラ		セーラ 「……お隣に……誰方か引越して来る

んだわ……！」

162

外し置かれた「TO LET」の看板、開いている玄関
老管理人と弁護士カーマイケルが出てくる（二人出て来たところで止まる）

カーマイケル「では、管理人さん、これでこの邸をお借りする手続きは全部終った訳だね」
老管理人「その通りですじゃ……カーマイケル弁護士……。……ご覧の通り掃除も間もなく終りますじゃで……いつでも引越して来られて結構ですわい……」
カーマイケル「では、早速荷物を運び込ませて頂きましょう……」

163

前へ出ていくカーマイケル

164

門の外へ出てくるカーマイケル
つづいて管理人
カーマイケル振り返り

カーマイケル「……借り主のクリスフォード氏がこちらに見えるのは……そのあとになると思うがね」
老管理人「お待ち申しておりますわい」
カーマイケル「じゃ、よろしくたのむよ」

	カーマイケル馬車に向う		
165	じっと見つめるセーラ		S・E　（馬車の戸の開閉音・馬車動き出す音）
166	背を見せて見送っている管理人 奥へ行く馬車 職人手を休めて見送る		
167	茫然と見つめているセーラ 隣家を見上げる		セーラ　「まあ……弁護士さんに、先にお邸を見に来させているなんて……」
168	隣家の窓　PAN・UP（カット一杯）　二階の窓をあける		
169	セーラ　T・U		セーラ　「確かクリスフォードさんとか仰言ったわ……。一体どんな方なのかしら……お子さんの沢山いらっしゃる、明るいにぎやかな御一家だと嬉しいけれど……」
170	コベントガーデン市場のにぎわい　PAN→　馬の水呑場で馬が水を呑んでいる		

171	買物の入った篭をもったピーターとセーラが来て止まり、おどろいた顔でセーラを見つめながら話すピーター 大きくうなずくセーラ		ピーター「へえー!! あのミンチン学院の隣にそんな人が引越して来るんですか——」
172	確信をもって宙を見つめて話すセーラ、浮々としてたのしそうに手前に来るセーラ セーラを微笑しながら見つめるピーター セーラくるりと振り返る		セーラ「そうなのよ……まだどんな家族だか判らないけど、もし元気のいいお子さんがいたら きっと屋根裏部屋まで探険に上って来るわ……。……そしたら……こちらから声をかけて、お友達になれるかも知れないわ……。〜〜〜
A・C			
173	セーラ 振り向いて		勿論、ベッキーにも紹介して、みんな仲良しになるのよ」
174	元気よく大きくうなずき		ピーター「なるほど……! そいつは面白いな……ようし俺も、どんな人が越してくるのか拝見しようっと……」
175	街の中 馬車が行き交う 奥をセーラとピーターが篭を中		

	にして行く		
176	学院の前のフカン　二人が来る 隣の方を見る		
177	隣の家に人だかりと引越しの馬 車から荷物をおろし運ぶ人々 二人顔を見合わせる 二人奥へ走る　篭はピーターが もって走る		ピーター「もう、来てますよ!!」 セーラ「まあ!!……」 ピーター「行ってみましょう」 セーラ「ええ」
178	囲んでみつめてる人々 ピーター走って来る　よける男 の人　ピーターがセーラの見る 所をあける―― 二人見て目を丸 くする		
179	荷物を下ろす人夫たち 出ていくもの入ってくるもの		
180	荷を下ろす人夫たちと周りに見 物する人々		

181	くるまれたインド風の大きな水差しをかついでいく人夫 目をくりくりして見つめる二人
182	石畳に敷かれたジュータンの上に（インドモヨウ）置かれる荷物　象牙の置物が置かれる
183	象の飾りものが運ばれる
185	象の置物が置かれる
186	顔をよせ合ってのぞきこみ感嘆している見物人
187	馬ぐさをくう馬と感嘆している見物人　顔を見合わせささやき合ったりしている
189	唖然として見るピーター うれしい表情のセーラ（以后うれしい表情のセーラ）

190	敷物の上に置かれた荷物、インドのものが目立つ　PAN→ 人夫が首の像を置く　丁寧に―		
191	人夫、馬車の方へ行く　T・U オドロイているセーラたち 目を輝かせているセーラ キョトンとなりセーラを見るピーター		ピーター「凄っげえー！　俺…見たこともないものばっかりだ……!!」 セーラ「インドだわ……！」 ピーター「え……インド……？」
192	唖然としているピーターの方を見るセーラ ピーター荷物の方を見て		セーラ「ええ……みんなインドの美術品や道具ばかりよ……インドにいたとき、お父様のお部屋にも似たような物がいくつかあったわ……！」 ピーター「へええ……〜」
193			(off)「……すると、引越して来るのは……」
194	二人顔を見合わせる ピーター、感心したようにうなずき家の方を見る――　つづいてセーラも見る		セーラ「……きっと、長い間インドに住んだ事がある方よ」 ピーター「フ――ン……！」

195	家具（インド風）を玄関より運びこんでいる人夫	
196	玄関へ荷物を運ぶ人夫 見つめている見物人	
197	置かれている荷物とセーラの後姿――ピーターの方を向く	
198	ピーターを見るセーラ 篭をピーターから引きとるセーラ うなずき、にっこりするセーラ	セーラ　「ありがとうピーター……とにかくなにか判ったらお知らせするわ……」 ピーター「ええ……お嬢さん！」
199	学院の地下の出入口　隣の家の玄関に荷物を運び入れるのが見える　セーラ来て見る	
200	見ているセーラ	
201	開けた窓から隣の方を見上げているアメリア　後から隣をのぞき見ているモーリー	モーリー「……そうなんですよ……アメリア先生！　先刻、裏庭で隣の家政婦から聞き出したんですけど……今度隣に越し

	202	203	204	205	206
アメリア、モーリーの方を見る モーリー、声をひそめてアメリアの耳許に	びっくりするアメリア うなずくモーリー、息をのむようにして叩頭して―― アメリア、隣を見る	見る二人――　ジェームスも来てのぞき見る	隣の家	セーラ、入って来て止まる	ジッと見つめるセーラ　T・U だんだん口許がきつくなっていく
て来るのは……インドの、大金もちの紳士なんだそうですよ……」	アメリア「まあ……インドの方がお隣に……」	モーリー「もっとも……話だと	(off)　御主人ってのが大変な変わり者らしくて……家政婦を傭う時も弁護士任せ…	(off)　まだ顔も見せないそうです……」 ジェームス「へえ……誰も知らねェてエのかい…でもよ…あんなわけも判んないガラクタばかり運びこんでるんじゃ、大金もちてえのもまゆつばもんじゃねえのか…」	セーラ「いいえ、あれはガラクタじゃありません」

207	一斉に振り向きオドロク三人 けしきばむジェームス		アメリア「まあ……セーラさん……！」 モーリー「いつの間に帰ってたんだい！」 ジェームス「……あれがガラクタでなけりゃ何んだってんだい！」
208	思わず息をのみセーラ		セーラ「…………。あれは……美術品としてもって来たのだと思います」
209	手前に来るジェームス 女同志、顔を見合わせる		ジェームス「……なんだって……?!」
210	ジェームスから目線を下げて、ためらいがちに		セーラ「……私のお父様も同じようなものをお部屋に飾って……美術品としていつもながめていました……きっとお隣に来る方も同じだと思いますが――」
211	ジェームス振り返り、モーリーと顔見合わせて肩をひく アメリア唖然としている		
212	二Fの階段　力なく昇っていく セーラの足　in～out		

213	昇っていくセーラ	
214	屋根裏部屋に入って来て扉に凭れるセーラ　大きく溜息をする	
215	うつむいていく　口唇をかむ 顔をあげる	
216	天窓	
217	机の前に来て写真をとり上げて見るセーラ	
218	写真を見つめるセーラ	
219	じっと見るセーラ 胸に写真をだきしめる	セーラ「……折角お隣に引越して来た人がいるのに…… どうして暖かく迎えてあげられないの ……お父様…！」
220	写真をだきしめているセーラ	
221	じっと見つめているエミリー	S・E　（机や椅子を動かす音）

222	机を引くセーラ（机の上のものなし、ベッドに置いたのです）		
223	窓の下に机を引いて来て、くつを脱ぎ、机にのぼり椅子を引き上げる　椅子の上にのり窓をひらく		
224	のり出すようにして隣を見るセーラ　明るい顔		
225	隣の家		
226	セーラの顔が曇る 淋しそうに枠に手をかけてもの想いにふけるように―― T・U（カット一杯）		セーラ「矢っ張りお隣には、元気のいいお子さん、いないのかも知れない……。……インド……お隣の人は何処にいたのかしら……」
	O・L		
227	ゆれる水面に美しい光りきらめく　水面にうつる若い母 手が（幼児）水をかいていく		

228	船をこぐ父と水に手をつけているセーラ（幼児） 遠くに雪を戴く山が見える 傘がくるくる回る　キャッキャッ喜ぶセーラ		
229	回る傘（工夫）		
230	喜ぶセーラと微笑する父 FOLLOW		
231	池を行く船		
232	差し上げられるセーラ		
233	父とたわむれるセーラ 母出てくる		
234	母の頬ずり　喜ぶセーラキャッキャッ　と止めになって T・B（動画で）　写真と同じ 構図になる		

O・L

	235	じっと写真を見つめるセーラ はっとなって振り返る 扉の方へ	S・E　（扉を激しくたたく音） モーリー(off)「セーラ……セーラ……」 セーラ　「ハイー!!」
O・L			
	236	扉をあけるセーラ	
	237	グーンと大きくのり出して	モーリー「なにをしているんだよ！」
	238	びっくりするセーラ、後退する	
	239	どなりおこるモーリー 顔をくっつけるようにしてドナル、モーリー	モーリー「隣に引越して来た妙な連中がこちらの方に引越しのゴミなどを投げこまれないように外に出て注意するんだよ！判ったね！」 セーラ　「は…はい！」 モーリー「……さっさといくんだよ!!」
	240	学院の塀　扉ひらいて出てくる セーラ　手前に見廻す	
	241	ゴミなど落ちていない　振り返	

	り去るセーラ		
242	階段を昇ってくるセーラ 止まり音の方を見る		S・E（馬車の音）
243	通りを馬車がくる		
244	二頭立ての車が行く FOLLOW		
245	馬車、隣の前で止まる 御者おり立って扉を開ける 犬がおりてくる		
246	はっとなるセーラ		
247	門柱の傍にキチンと座る犬		
248	馬車からカーマイケル弁護士が おりてくる。		
249	扉開いて下僕（インド人）二人 がジューターンを転がして伸ばし		

	ていく（カイダンの下まで）		
250	転がされ伸びていくジュータン		
251	ひかれていくジュータン		
252	馬車のところまで伸ばされてくる T・B		
253	セーラ、目を丸くして見つめる		
254	カーマイケル両手を叩き		カーマイケル「ラム・ダス、……ラム・ダス…！」
255	玄関に現われるインド人ラムダスのシルエット		
256	軽々とジュータンの上を行くラムダスの足		
257	階段の端に立つ足 PAN・UP にっこりと微笑むラムダス		

258	軽やかに階段を下りるラムダス		
259	軽々と行くラムダスの腰にゆれる布ベルト　FOLLOW		
260	颯爽と行くラムダスの足　FOLLOW		
261	ラムダスが行く　FOLLOW		
262	犬が見送る（※尻で一寸見上げる）		
263	華麗な馬車の前に進んで行き止まり立つラムダス 両の手を上に差し上げる（ゆっくりと）		
	A・C		
264	胸の前で手の先をつけて一礼するラムダス 元にもどる（※礼はゆっくりとー！）		

265	車の中へ身を屈めて入っていく ラムダス　ゆれる馬車		
266	馬車と出入口に傍に立つ人々 T・B　見守るセーラ		
267	見守るセーラ		
268	踏み台に下ろす足（ラムダス） 一歩とばして直接地面に下りて いく片方の足（※重いのでゆっ くりと）		
269	礼をする老インド人　迎えるカ ーマイケル氏の前に毛布を足に かけ車椅子にのったクリスフォ ード氏が下りてくる		
270	ラムダスに捧げられた車椅子の クリスフォード　左右に微笑を 投げかける―― カーマイケル傍 により微笑して家の方を指す うなずいて家を見上げるクリス		

	フォード	
271	見上げるクリスフォード氏と新しい家	
272	見上げているクリスフォード 共に見上げていたカーマイケル クリスフォードを見る真剣な顔 クリスフォード、にっこりと笑ってうなずく——カーマイケル氏ほっとしたごとく大きく頭を下げる クリスフォード、ラムダスの方を振り返り合図する クリスフォード氏を下ろすラムダス	
273	下ろし、ゆっくりと玄関に向う 傍を行くクリスフォード氏 見送る犬と老インド人	
274	周囲を見ながら行くクリスフォード氏　FOLLOW	

275	玄関の前石段のところで止まるラムダス、車椅子をもつ
	A・C
276	捧げもち上げるラムダス、石段を昇る——犬も——
277	下ろし奥へ入っていく三人シルエットになる　犬もあとからつづく ——尻・間——
278	見送っていた御者、扉をしめる二人のインド人、ジュータンを巻き上げていく ——頭・間——
279	巻かれていくジュータン
280	馬車走りoutする　巻かれたジュータンと二人、中へ消える
281	立ちつくすセーラ

282	唖然としているセーラ　頭止 T・U		
283	隣の家		セーラⓃ「オトナリに越して来たクリスフォードさんは、なんと重い病気のように見えたのでした」
284	心配げな表情のセーラ うつむいていく　止 F・O		

（おわり）